

〔四国圏広域地方計画を取り巻く近年の動き〕

- 人口減・超高齢化社会の本格的進行、気候変動に伴う自然災害の頻発・激甚化ばかりでなく、近年は、訪日外国人観光客需要の急増、ICT・IoT等の発展によるデジタル社会の急速な進展など、本計画を取り巻く環境は劇的に変化している。
- 他方、そうした社会経済状況から、様々な分野におけるこれまでの蓄積・洞察からの新たな気づき、試行錯誤からの創造性の萌芽や新しい取組みもみられる。



連携施策の意見交換の目的

- ✓ 本計画では、目標実現に向けた各プロジェクトにおける取組みを各機関において着実に進めるとともに、急速な環境変化に対する柔軟、かつ迅速な対応が重要
- ✓ 本計画の実施にあたっては、明確なビジョンや情報の共有化を徹底し横断的な議論のもと、四国圏内各地で展開される多種多様な施策間における「新しい連携・協働」を積極的に促すことで、相乗効果や新たな価値の創造が見込め、加速化する時間軸の中で、各プロジェクトのより質の高い対応が期待できる
- ✓ このため、様々な機関が一同に集まる「場」である本会（幹事会）等を通じて、新しい連携施策の可能性や新しい視点での気づきなどについて意見交換を行う

複数の施策が相互に影響を与えながら急激な環境変化への適応力を高める方向に進化

これにより、四国圏広域地方計画の一層の推進が期待される

今回、取り上げる新しい連携・協働のテーマは、

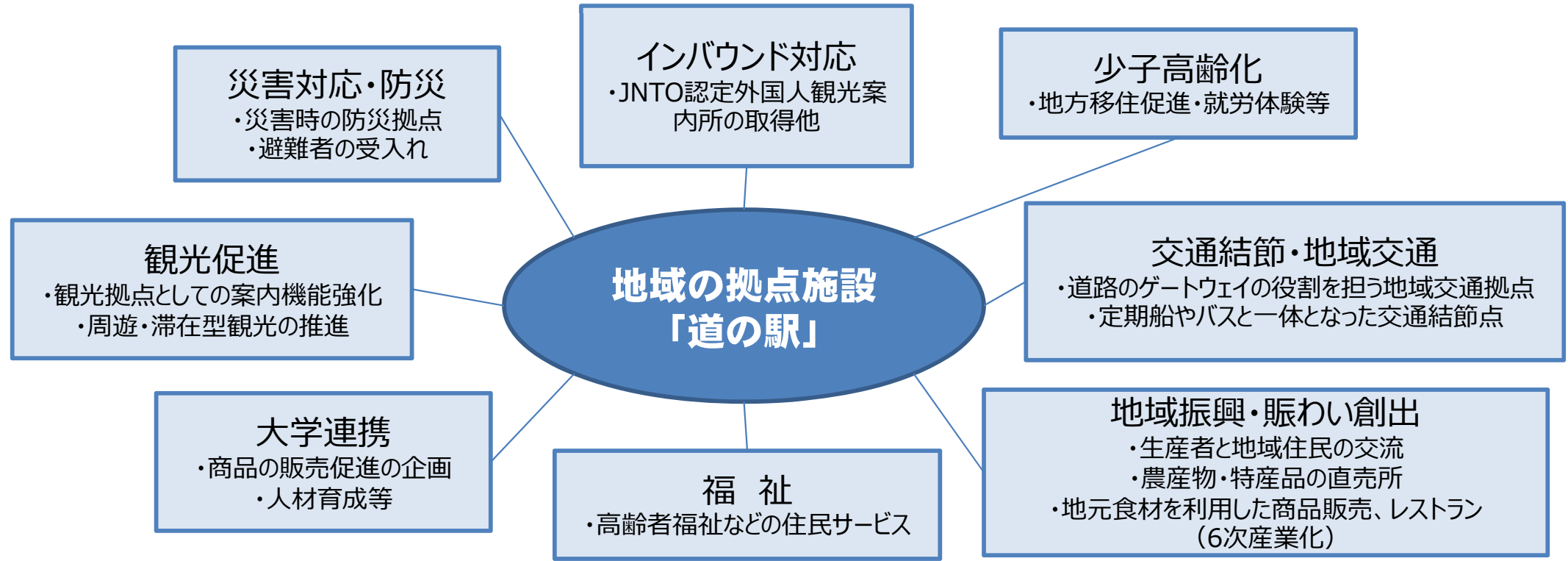
- 「地域の拠点施設」に対する連携施策（事例：「道の駅」、「みなとオアシス」）
- 「新たな観光資源」に対する連携施策（事例：「インフラツーリズム」）
- その他にも、上記のそれぞれの事例に類似の取組みをはじめ、それ以外の取組みについても多数考えられる。

(テーマ) 「地域の拠点施設」に対する新しい連携・協働について

● 事例：「道の駅」等にかかる連携施策の可能性

- 「道の駅」は、No.3「視国」観光活性化プロジェクトに位置付けられ、「地方創生の核となる「道の駅」の機能強化等の推進」を掲げており、新たに第3ステージとして「防災」「インバウンド」「地域センター」の検討を推進している。
- また、No.4「子国」支援対策プロジェクトでも地域の拠点としての持続可能な地域づくりに寄与している。
- 「地域の拠点施設」として、「道の駅」、「みなとオアシス」の他に「海の駅」等があり、これらを核とした各機関との連携施策について、これまでの取り組み事例や課題、連携の可能性の検討を行う。

「道の駅」を核とした新しい視点からのアプローチの事例

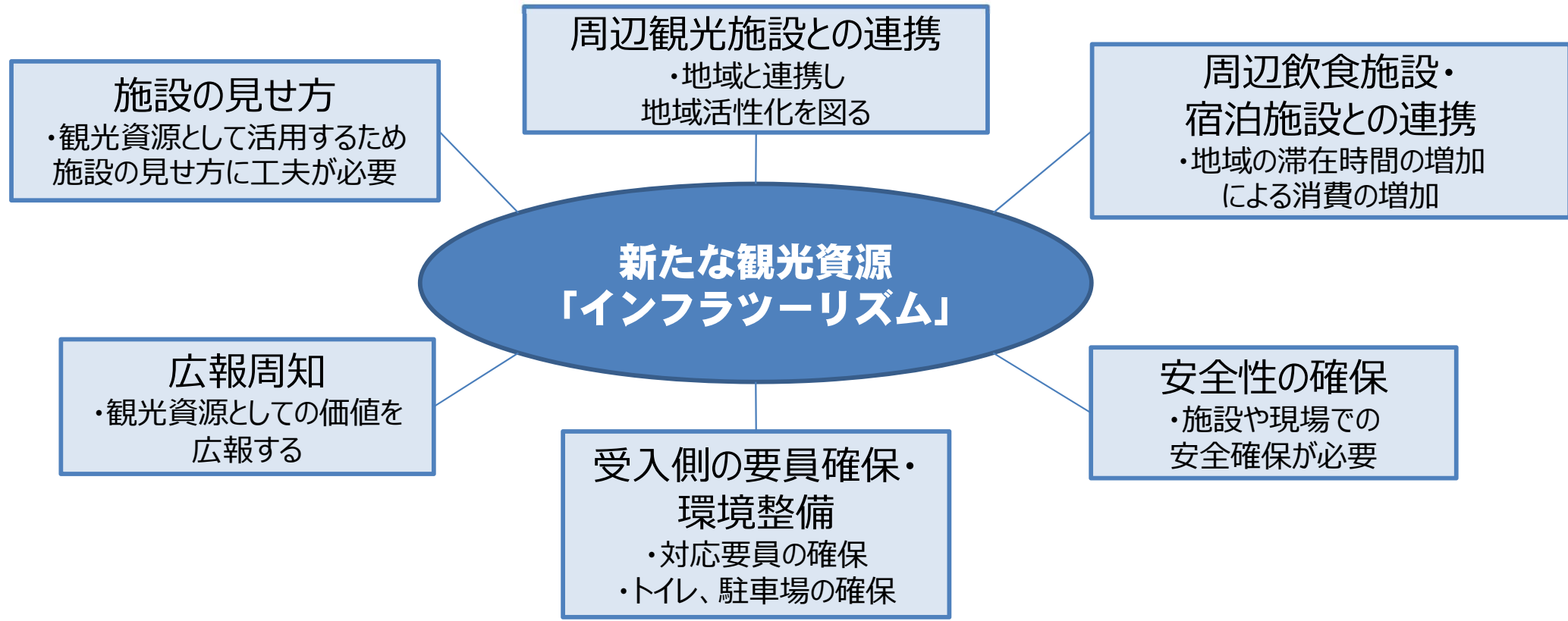


(テーマ) 「新たな観光資源」に対する新しい連携・協働について

● 事例：「インフラツーリズム」等の観光施策の可能性

- インフラ(公共施設)を観光資源として活用し、普段触れることのできないインフラの内部や工事中の風景などを見学する「インフラツーリズム」が実施されており、No.3「視国」観光活性化プロジェクトの推進に寄与している。
- このような新たな観光資源として価値を見出されたものに対して、今後発展させていくための各機関との連携施策について、これまでの取組み事例や課題、連携の可能性の検討を行う。

「インフラツーリズム」を核とした新しい視点からのアプローチの事例



「道の駅」の目的と機能

「道の駅」の目的

- ・道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・地域の振興に寄与

「道の駅」の機能

休憩機能

- ・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ

情報発信機能

- ・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供

地域連携機能

- ・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

「道の駅」の基本コンセプト

地域とともに作る
個性豊かな
にぎわいの場



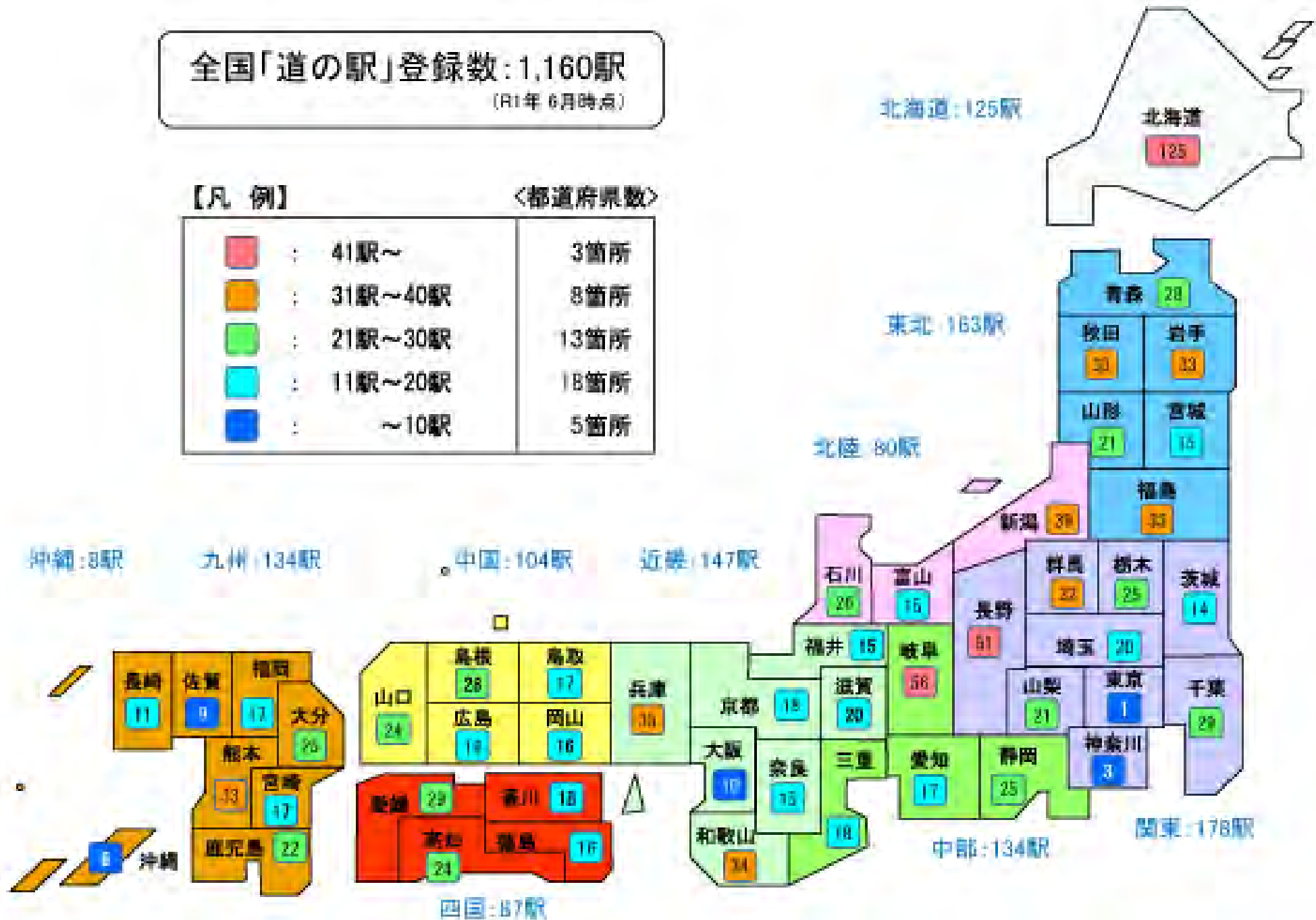
災害時は、防災機能を発現

都道府県別「道の駅」登録数

全国「道の駅」登録数: 1,160駅
(R1年 6月時点)

【凡例】 <都道府県数>

■ (赤)	: 41駅~	3箇所
■ (オレンジ)	: 31駅~40駅	8箇所
■ (緑)	: 21駅~30駅	13箇所
■ (水色)	: 11駅~20駅	18箇所
■ (青)	: ~10駅	5箇所





きらりと光る道の駅「たからだの里さいた」～地方移住促進等～

香川県三豊市

- 三豊市では、地産地消・移住促進の拠点となる重要な地域内の駅として位置づけ
- 道の駅には、「物産館」「環の湯」「湯の谷荘」「ふるさと伝承館」「パークゴルフ場」など設備も充実
- 産直施設を活用した地産地消の推進
- 農業者と漁業者による体験型観光案内を実施
- 地元団体と協力し、先ずは体験、その後先進移住者との交流会により、定住を促す



地産地消の推進(産直施設)



新鮮な野菜と果物が毎日出荷される産直市を開催。

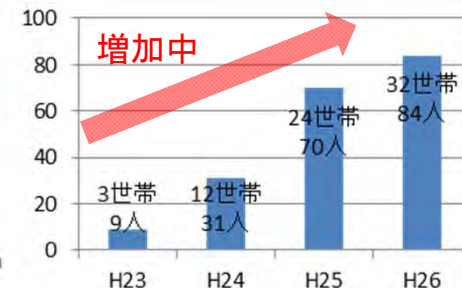
たからだの里アイス



第1回四国「道の駅」アイスクリームグランプリで堂々のグランプリ受賞。地元で収穫されたフルーツや野菜を使用。



県外から三豊市への移住者の推移(累計)



健康福祉の推進(温浴施設)



温泉施設「環の湯」、年間20万人を集客。

体験型観光の推進(うどん打ち体験)



「ふるさと伝承館」で、毎月1回20名程度。

体験型就労の推進(農業体験)



現在はイベント的に、秋ごろ果物等収穫体験を行っている。

交流会の様子



「ふるさと伝承館」での交流会の様子。(昨年1回のみ)



○インターンシップの積極的な活用

- ・毎年、積極的にインターンシップ制度を活用し、若い人の考えを現場に取り込んでいる。
- ・平成27年度の取り組み内容
 - ①商品販売促進の企画・提案
 - ②生産者と地域住民の交流の企画・提案



学生と「道の駅」担当者との打ち合わせ風景

- ・平成28年度の取り組み内容
 - ①「道の駅」の新たな施設案内板の企画立案
 - ②温泉など既存施設を活用した集客方法の提案
 - ③「道の駅」販売商品等の開発
- ※共奏キッチン、今年度も実施予定

①商品販売促進の企画・提案

学生が「たからだの里さいた」のfacebookを開設し、道の駅の情報発信に取り組みました。



●Facebookは多くの方に見ていただいております。店舗の話によると、Facebookを見てきてくれた人がいたということで、効果が出てきています。

②生産者と地域住民の交流の企画・提案

野菜を作っている生産者の方を身近に感じ、地域の人同士の交流が深められる他、財田の野菜を使った料理方法を学べるなど料理を通していろいろな効果を得ることができました。(H28.1月)

●共奏キッチンの実施状況



農家さんの野菜



完成！



「みなとオアシス」の概要

○みなとオアシスとは

- ・地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、平成15年に制度を設立
- ・国土交通省港湾局長が住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設を登録するもの

○みなとオアシスの担う役割

- ・地域住民、観光客、クルーズ旅客等の交流及び休憩
- ・地域の観光及び交通に関する情報提供
- ・その他（災害時の支援、商業機能 など）

○みなとオアシスの構成施設

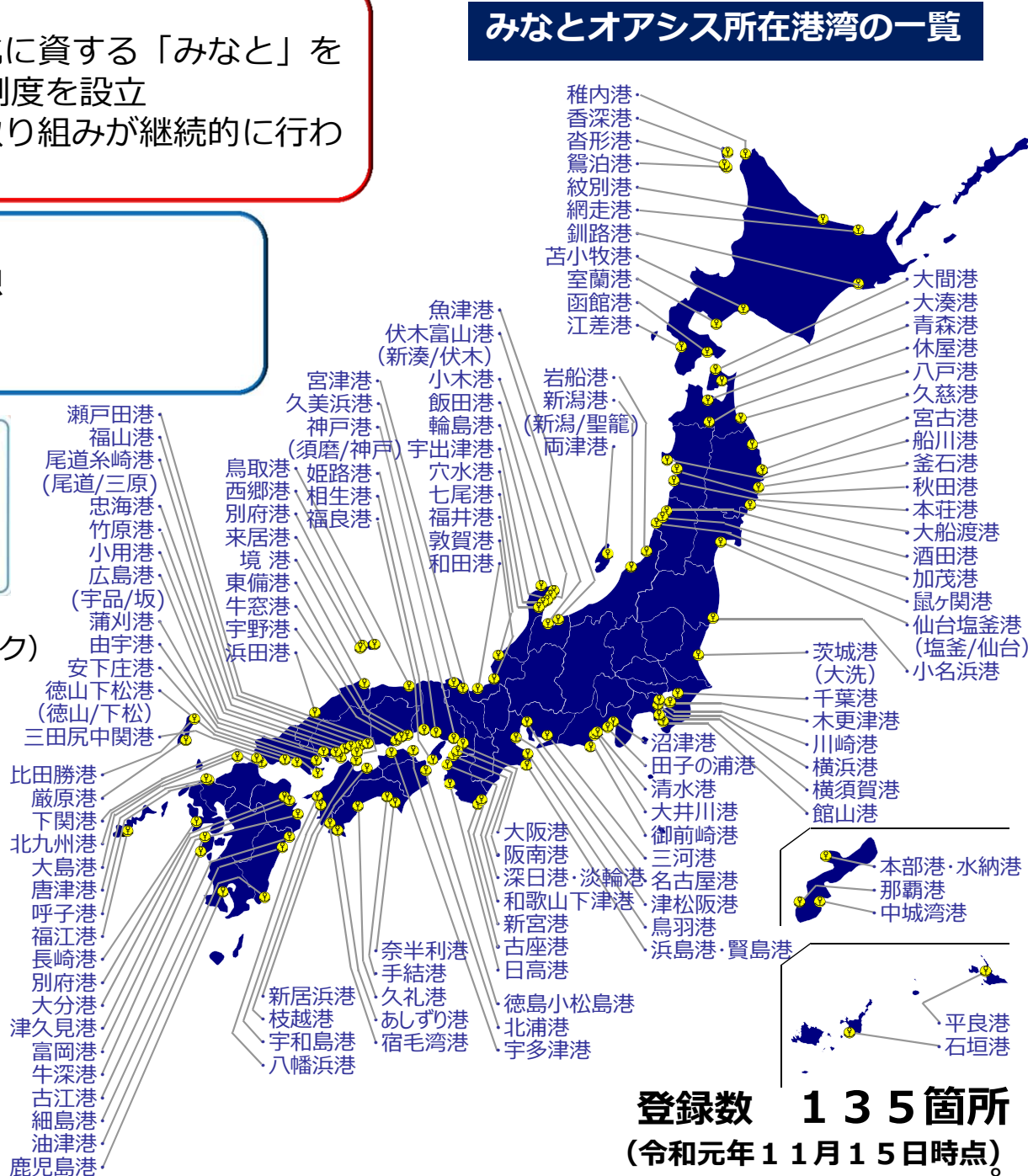
- ・旅客ターミナル
- ・地元産品の物販飲食店
- ・文化交流施設 など

○みなとオアシスの設置者・運営者

- ・地方公共団体（港湾管理者含む）
- ・NPO団体、協議会 など



標章
(シンボルマーク)



構成施設のイメージ



地域振興イベントの開催状況

登録数 **135箇所**
(令和元年11月15日時点)

- ・みなとオアシス「八幡浜みなと」には、みなとまちづくり、交流の拠点となる「みなと交流館」、新鮮な魚介類を販売する「どーや市場」、地元の海の幸、山の幸が販売されている「アゴラマルシェ」といった施設があります。
- ・平成25年4月オープンし、年間来場者100万人以上を5ヶ年度連続達成

○みなと交流館（観光案内・まちづくり活動拠点）



道路や海路に関する情報を提供するほか、市の観光やイベント情報を広く発信しながら八幡浜市を積極的にPR。また、まちづくり活動の拠点として、地域活動団体が気軽に集い、ミーティングや作品発表、体験活動の場として活用できるスペースを用意しています。

○どーや市場（海産物直売所）



魚のまちにふさわしい威勢のいい魚屋がズラリとならび、その日に魚市場へ水揚げされた新鮮かつ安全安心な海の幸を浜値で買うことができます。



みなとオアシス
八幡浜みなと

アゴラマルシェ
(産直・物産販売・飲食施設)

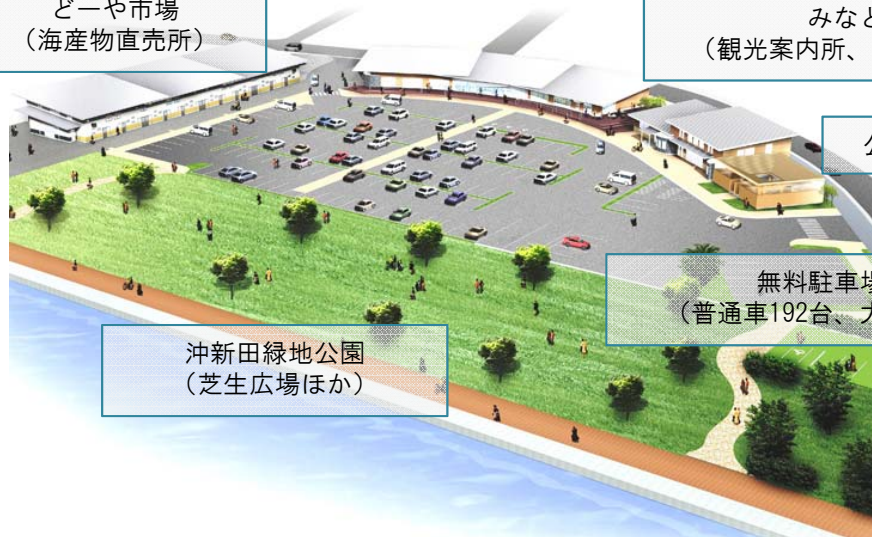
どーや市場
(海産物直売所)

みなと交流館
(観光案内所、ホール、会議室)

公衆用トイレ

無料駐車場
(普通車192台、大型3台)

沖新田緑地公園
(芝生広場ほか)



○アゴラマルシェ（直販・物販・飲食施設）



産直・物販コーナーでは、採れたての柑橘をはじめとした果物や野菜、八幡浜ならではの名品など、生産者が愛情を込めて丹念に作ったこだわりの品々を販売します。八幡浜の特産品を生かした商品の開発も積極的に行い、販売や料理教室も実施。飲食部門は、イートイン/フードコート、カフェで構成します。地域の旬の素材、伝統を生かした多彩なメニューをご用意。石釜ベーカリーの焼きたてパンやピザはもちろん石釜料理を味わえます。

- ・みなとオアシス久礼には、道の駅なかとさ・みなとオアシス久礼、鯉乃國の湯宿「黒潮本陣」、中土佐町立美術館、ふるさと海岸、大正町市場、久礼新港、小草ふれあい公園パークゴルフ場、津波避難タワーといった施設があります。
- ・道の駅なかとさ・みなとオアシス久礼は平成29年7月オープンし、8ヶ月で年間来場者目標25万人を達成



構成施設名
①代表施設:道の駅なかとさ みなとオアシス久礼
②鯉乃國の湯宿「黒潮本陣」
③中土佐町立美術館
④海岸施設
⑤久礼大正町市場
⑥久礼新港
⑦小草ふれあい公園パークゴルフ場
⑧津波避難タワー

○直売所・物販



○飲食施設



○にぎわい広場



主な開催イベント



かつお祭り(5月第3日曜日)



大正町市場(通年)



インフラツーリズムの概要

インフラツーリズムの理念

- インフラツーリズムは、インフラへの理解を深めていただくため、普段訪れることのできないインフラの内部や、日々変化する工事中の風景などの非日常を体験するツアーを地域と連携して展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指すもの。

◆インフラツーリズムの拡大を図るために

- ①まず、インフラに来てもらう
- ②そこで、インフラを楽しんで理解してもらう
- ③そして、地域に滞在してもらう



◆インフラツーリズムによる地域活性化を実現するために

- | | |
|---------------|--------------------------------------|
| ・人を呼び込む | →魅力的な施設の見せ方を工夫する
→魅力を発信する(広報周知) |
| ・より多くの人を受け入れる | →対応要員を確保する
→受入環境を整える
→安全性を確保する |
| ・持続的に展開する | →持続性を確保する
→地域と連携する |

首都圏外郭放水路【埼玉県春日部市】

世界最大級の地下河川。まるで「地下神殿」
H30年度の年間来訪者数は約45,000人



インフラツーリズム 拡大の手引き

取り組みの概要

「国の防災施設を官民連携で世界一の観光資源に育てる」ことを目指して、2018年8月1日より「民間運営見学システム」の社会実験を開始した。

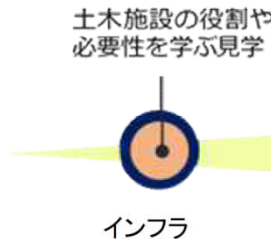
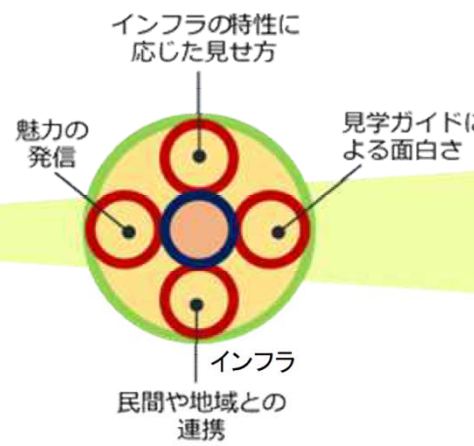
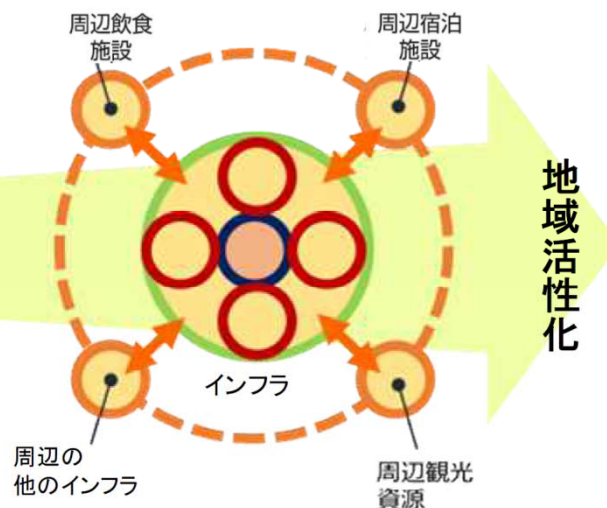
民間旅行会社により、土日祝日を含めた毎日7回のツアーを開催し、見学枠を5倍に拡大することができた。専門のガイドを育成・配置し、ツアー商品受け入れや春日部市内の施設や農園への誘導等の取り組みも行っている。

対前年度見学者数との比較

数字は見学者数（開催回数）

	8月	9月	10月	3ヶ月合計
2017	2,232人 (79回)	1,659人 (52回)	1,844人 (49回)	5,735人 (180回)
2018	9,784人 (192回)	5,977人 (190回)	6,401人 (201回)	22,162人 (583回)
対前年比	4.3倍 (2.4倍)	3.6倍 (3.7倍)	3.5倍 (4.1倍)	3.86倍 (3.2倍)

「土木広報としてのインフラの見学会」に付加価値をつけて
 「人を呼べる観光資源としてインフラを磨き上げ」、地域の方々と連携して
 「周辺観光資源への立ち寄りや地域への宿泊を促し」、地域活性化を進めていく。

土木広報 ～インフラツーリズムの基礎～	土木広報＋付加価値 ～魅力ある観光資源へ～	(土木広報＋付加価値) × 周辺観光資源 ～地域と連携した観光地域づくり～
 <p>土木施設の役割や 必要性を学ぶ見学</p> <p>インフラ</p>	 <p>インフラの特性に 応じた見せ方</p> <p>魅力の 発信</p> <p>見学ガイドに よる面白さ</p> <p>インフラ</p> <p>民間や地域との 連携</p>	 <p>周辺飲食 施設</p> <p>周辺宿泊 施設</p> <p>周辺の 他のインフラ</p> <p>インフラ</p> <p>周辺観光 資源</p> <p>地域 活性化</p>
<p>土木広報としてインフラの見学会を実施している段階</p>	<p>インフラの見学会を磨き上げ、より広範囲から人を呼び込む段階</p>	<p>インフラと地域との連携により、周辺観光資源等にも立ち寄り、より一層地域活性化が図れる段階</p>

機能アップ!!「長安ロダム」 那賀川の暮らしを守る兄弟ダム

徳島

～日本の土木技術の粋と自然エネルギーを体感しよう～

長安ロダム新設ゲート2基完成。令和元年6月より新旧ゲート全8門にて試験運用を開始しました。那賀川流域の洪水や渇水を軽減するための、ダムの洪水調節能力が向上しました。

平成24年9月から始まったダム改造工事も残すはダム下流、減勢工の一部となり最終段階を向かえています。

ダムを運用しながら進めてきた工事、まさに日本の土木技術の粋。生まれ変わった長安ロダムをぜひご覧下さい。ゲート放流の眺めは圧巻です。

2016年7月にオープンした川口ダム自然エネルギーミュージアムは、水力・風力・太陽光・水素の4つのエネルギーを一度に体験できる科学館で大人も子供も楽しく自然エネルギーを学ぶことができます。(開館時間/9:30～16:30、休館日/毎週月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始12/29～1/1)長安ロダム見学のお申し込みは以下まで(見学可能時間/平日10:00～16:00)

http://www.skr.mlit.go.jp/kikaku/spotguide/to_pdf/to_index.html

長安ロダムの工事の詳細は、ウェブサイトでも確認できます。

<http://www.skr.mlit.go.jp/nakagawa/dam/index.html>



after



▲新旧ゲート全8門による
放流状況
【放流量:550m³/s】



before

▼ジビエダムカレー (もみじ川温泉)(鹿肉)



▲川口ダム お絵かきスマートタウン (川口ダム ミュージアム内)
紙に自由に絵を描くと、描いた絵が立体で巨大な絵の街に出現し、動き出します。



インフラ
ツーリズム

美しい瀬戸内海を彩る技術の結晶

瀬戸大橋

—世界規模の橋を支える土木技術を体感する—

瀬戸大橋は、岡山県倉敷市と香川県坂出市の海峡部約9.4kmを結ぶ6つの橋から成る、世界最大級の道路と鉄道の併用橋です。潮流や台風、地震、複雑な海底の地質などの厳しい条件を克服するため、着工から約10年の歳月をかけ、我が国の土木技術・架橋技術の粋を集めて建設されました。

「瀬戸大橋スカイツアー」では、普段は立ち入ることができない橋台内部や管理用通路を経て、海面から175mの高さにある北備讃瀬戸大橋の塔頂部まで登ることができます。

塔頂から見下ろす圧倒的な景色や、世界最大級の道路鉄道併用橋の壮大なスケール感を体感しにぜひお越しください。

電話でのお問い合わせは、瀬戸大橋スカイツアー事務局（TEL 0877-43-0530）
詳細は、ホームページで確認できます。

<https://www.jb-honshi.co.jp/skytour/index.html>



北備讃瀬戸大橋
塔頂からの眺め

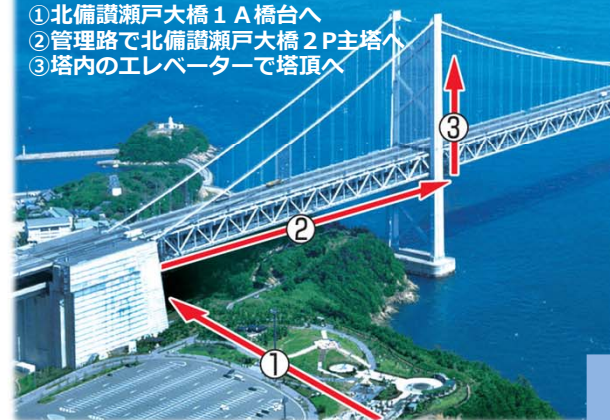


JR瀬戸大橋線が真横を駆け抜ける管理路



瀬戸大橋スカイツアー 行程

- ①北備讃瀬戸大橋 1 A 橋台へ
- ②管理路で北備讃瀬戸大橋 2 P 主塔へ
- ③塔内のエレベーターで塔頂へ



インフラ
ツーリズム

サイクリストの「聖地」

しまなみ海道サイクリングロード

愛媛

—インフラが生み出した 絶景のサイクルツアー—

しまなみ海道サイクリングロードは、愛媛県今治市と広島県尾道市を結ぶ、日本初の海峡を横断する70kmのサイクリングロード。

本州四国連絡橋の3ルートの中で唯一、自転車歩行者専用道路が併設され、眼下には多島美が広がり、四季折々の自然美を望むことのできる場所。

年間を通じて数多くのサイクリストを魅了し、米CNNで世界7大サイクリングロードに選定されるなど、海外からも高い評価。

令和元年11月には、国土交通省が創設した「ナショナルサイクルルート」にも指定。

しまなみ海道沿線には、レンタサイクルターミナルや休憩所や宿泊施設など、サイクリストのための利便施設も充実。

しまなみ海道を含む環瀬戸内海地域で整備された「ブルーライン」は、国内外のサイクリストを地図がなくとも迷うことなく、わかりやすく誘導します。

みなさんも、壮大な自然とインフラを全身で感じてください。

■しまなみ海道サイクリングロード



■休憩所や観光施設



■ブルーライン

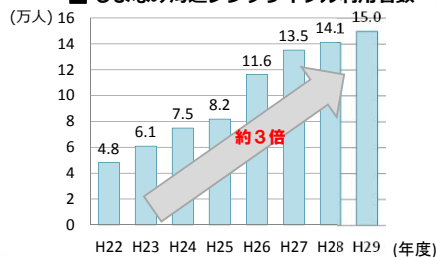


■サイクリングしまなみ2018

国内外から約7,200サイクリストが参加



■しまなみ海道レンタサイクル利用者数



サイクリストの聖地



詳細はホームページで確認できます。

(一社)しまなみJAPAN

<https://shimanami-cycle.or.jp/>



インフラ ツーリズム

令和元年10月 試験湛水開始

よこぜがわ 「横瀬川ダム」

—ダム完成に向け、安全確認中—

横瀬川ダムは、渡川水系横瀬川に建設中のダムで、洪水の調節、河川環境の維持、水道用水の供給を目的としています。

平成31年3月にダム本体のコンクリート打設を完了し、令和元年10月1日より試験湛水を開始しました。

試験湛水中は、ダムに実際に水を貯め、ダム本体の安定性、水漏れの有無、各種設備の正常な動作、貯水池周辺での地すべりの有無等を確認し、完成に向けたダムの安全性を確認していきます。

横瀬川ダムでは、日本初のダム壁面クライミングや森林探検サイクリング・ダム見学会を行うイベント等も開催予定です。完成間近のダムを是非皆さん見に来て下さい。

横瀬川ダムの工事の詳細は、以下のウェブサイトを確認できます。
<http://www.skr.mlit.go.jp/nakasuji>

令和元年10月1日 湛水式を開催



高知

—2ダムを活用した取り組み— 中筋川ダム×横瀬川ダム

令和元年8月25日 蛍湖まつり 中筋川ダム



令和元年8月25日に中筋川ダムで開催した「蛍湖まつり」では、中筋川ダム見学・横瀬川ダム見学の他に、地元小学生などがダム湖にてカヌー体験や、地元中学生による音楽祭、夜はライトアップも行われました。

令和元年8月25日 蛍湖まつり 横瀬川ダム



側水路へ
潜入！！



イベント情報（参加者数は令和元年度の実績）

イベント	開催時期	参加者数	主催
蛍湖まつり	8月25日(日)	約800人	ダム活元気ネットワーク
横瀬川アクティブイベント	10月27日(日) 開催予定	未定	ダム活元気ネットワーク

インフラ
ツーリズム